

平成29年度

市民アンケートの結果を公表します

市では、「第6次鹿角市総合計画」において、「笑顔がつながり活力を生むまち・鹿角」を将来都市像として定め、その実現を目指しています。市民アンケートは、市が導入している行政評価制度の外部評価として、施策の効果と需要を調査・把握するほか、市民の意識や意見等を集約し、今後の施策推進に活用することを目的としています。

満18歳から74歳までの市民700人の方に配付し、469人の方（回収率67・0％）から回答をいただきました。ご協力いただいた皆さまに感謝申し上げます。

市民アンケートの詳細な結果は、市ホームページで公開しているほか、各図書館でも閲覧できます。

社会活動・地域活動の参加割合 61.9%

前年を5・6ポイント下回る結果となりました。年代別では、60代の参加割合が最も高くなっており、本

市の地域コミュニティにおいては、60代以上の活躍が大きなウエイトを占めています。今後は多くの世代の参加につながる社会・地域活動を支援し、地域コミュニティのさらなる活性化を目指します。

「まちなか（中心市街地）への住み替えについて

「まちなか」の空き家の活用などの観点から住み替え需要を調査したところ、全体の10％強の方が住み替えを希望していました。理由として最も多かったのは、買い物や通院などでの利便性の向上で、次いで多かったのは除雪の労力の軽減でした。

しかし住み替えの実現については、住み替えを希望した方のうち実現できると回答した方は7・5％で、特に女性のうち実現できると回答した方の割合が男性の3分の1程度と差があることが特徴的でした。実現できない理由として最も多かったのは経済的理由でした。今後は、住み替えを進めるための課題などについて分析と検討を進めます。

週1回以上の頻度で運動する割合 56.3%

前年度を1・8ポイント下回る結果にはなりましたが、平成25年度から実施率が継続して50％を超えており、スポーツや健康づくりのための運動習慣が定着してきているものと考えられます。引き続き、より多く

公共交通に不便を感じる割合 17.9%

前年を1・1ポイント上回る結果となり、理由としては「本数が少ない」「土日、祝日の運行が無い」が多く挙げられました。公共交通機関の利用頻度については、週2回以上利用していると回答した方が1・7％おり、割合は少ないものの一定数の需要があることがわかります。

利用者の減少とともに運行本数を縮小せざるを得なかった経緯から、増便は難しい状況にありますが、広範囲に分散する需要をカバーするため、今後も引き続き、予約型デマンド運行や地域主体の乗合交通の取り組みを進めるなど、持続可能な公共交通の運行確保に努めます。

住みごちに満足している割合 52.5%

前年を2・7ポイント下回りました。住みごちについては、福祉や雇用、コミュニティなどを含む総合的な指標であることから、本市の持つ魅力を十分発揮したまちづくりと計画的な社会基盤の整備を進め、満足度の向上に努めます。

鹿角に愛着を感じる割合 73.6%

前年を3・7ポイント下回る結果となりました。鹿角への愛着を高めていくためには、地域にある「モノ」や「コト」を磨き輝かせることが重要であるため、市民のイメージや価値を共有しながら、鹿角ブランドを確立し、ふるさとへの誇りが高まるような地域づくりを進めます。

中心市街地の環境に満足している割合 53.8%

前年を5・2ポイント下回る結果となりました。理由には買い物や遊ぶための場所が少ないことが最も多く挙げられ、次いで駐車場の少なさ、公共交通機関の不便さといった交通手段に関わるものが多くなっています。今後は鹿角花輪駅前広場の整備を進め、中心市街地の活性化と、快適性、利便性の向上に取り組んでいきます。



子育て支援の満足度 53.7%

前年を2・1ポイント下回る結果となりました。マイナス評価の理由として「医療体制」を挙げた方が多く、里帰り出産の受入れ停止が影響したものと考えます。一方、半数以上の方からプラスの評価を得ており、継続して行ってきた子育て支援策が効果を上げているものと捉えています。今後もニーズの把握に努め、引き続き支援を進めていきます。



1年間に芸術鑑賞に親しんだ割合 33.5%

前年を4・6ポイント下回りましたが、コモッセで鑑賞した割合は84・7％と前年よりも9・2ポイント増加しており、コモッセが芸術鑑賞の場として定着してきたことがう

「市議会だより」について

50％以上の方が「ほとんど読んでいます」「関心のある記事だけ読んでいます」と回答していますが、若い世代になるほど読まない傾向が強くなり、29歳以下と30代では、市議会だよりの存在を知らないという方が1割以上いました。

内容を工夫してほしい、分かりやすく編集してほしいといった意見も多く、今後は全世代に興味を持ってもらい、読んでもらえるような紙面づくりに努めます。

